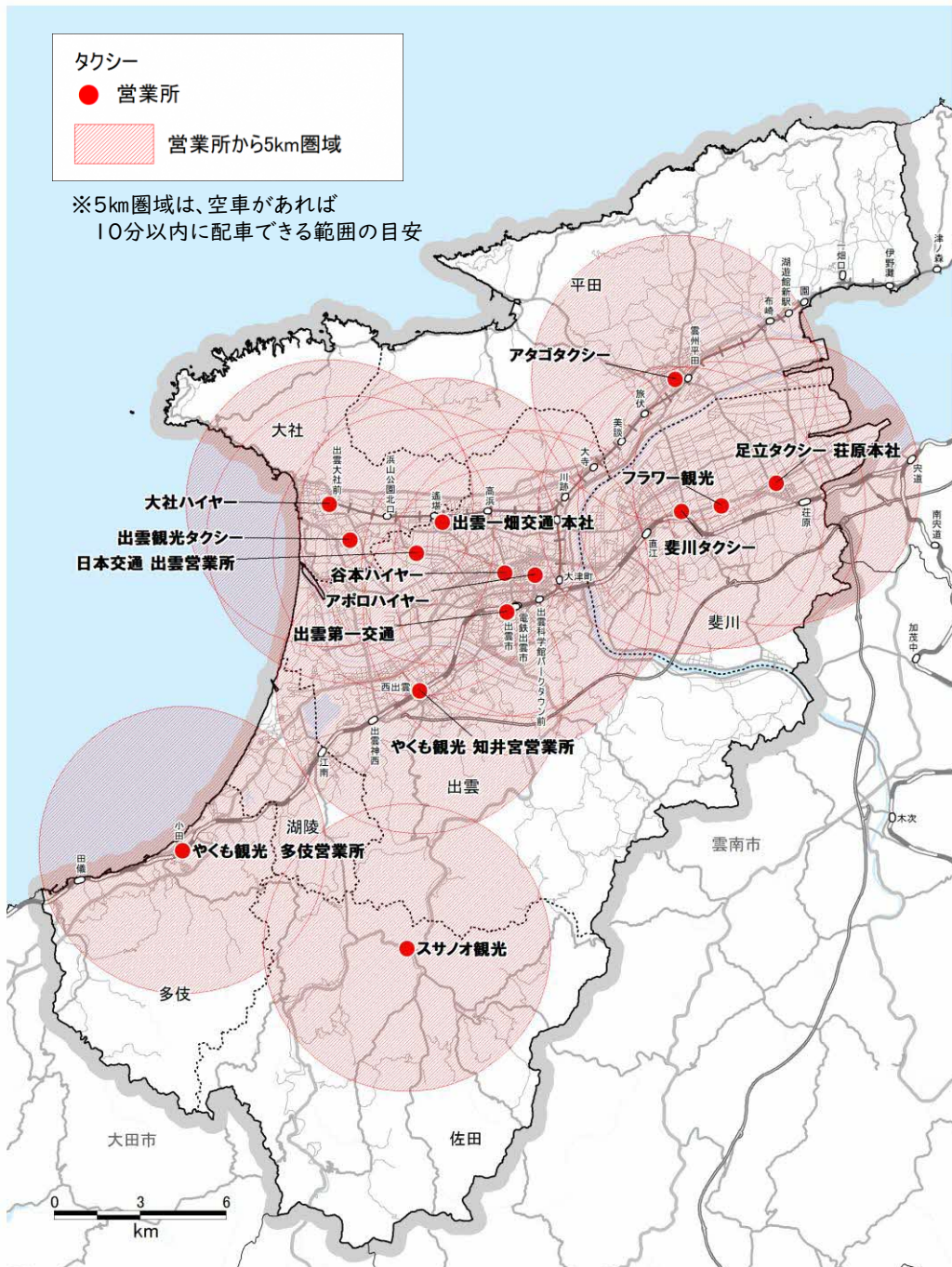


2-9. タクシー

- 湖陵地域を除く地域に合計14か所のタクシー営業所があります。
- 湖陵地域にはタクシー営業所がありませんが、江南駅を拠点として地域内に車両が配置されています。
- 出雲一畑交通の平田営業所は令和2年(2020)9月をもって閉鎖となりましたが、雲州平田駅構内に車両が待機しています。

タクシー営業所の分布



資料:島根県旅客自動車協会(令和4年(2022)3月時点)

2-10. 出雲市が実施する高齢者・障がい者等を対象とした移動支援施策

- 市が実施する移動支援施策は下記で示すとおり、合併前の名残などから対象者、運行形態、交通事業者との契約方法、管轄する部署など、地域によってさまざまに複雑な仕組みとなっています。

移動支援施策一覧

担当課	事業名	事業概要	実施地域	対象者
交通政策課	高齢者等外出支援事業	利用者を自宅から地域内の医療機関・商業施設等まで移送(佐田地域は、出雲地域の医療機関も利用可)	佐田多伎	65歳以上の高齢者又は障がい者のうち以下のすべてに該当する者 ①要介護認定者、要支援認定者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、障がい者、肢体不自由者 ②運転免許証非所持者又は運転困難者 ③路線バスの利用が困難である者 ④本人及びその配偶者が住民税非課税である者
		【斐川まめながタクシー】 地域内の医療機関・商業施設などを目的地として、デマンド型乗合タクシーを運行	斐川	1人で利用できる者又は介護者が同乗すれば利用できる者のうち、下記のいずれかに当てはまる者 ①65歳以上の者 ②障がい者手帳所持者 ③介護者(利用者1人につき1人同乗可能。介護者のみの利用は不可。登録と利用時の予約、利用料が必要)
	福祉バス	地域内の医療機関・商業施設等を周る定時定路線の路線バスを運行	出雲湖陵	出雲市民で次のいずれかに該当する者 ①65歳以上の者 ②障がい者手帳所持者及び要介護認定者(要支援含む)とその介助者 ※車イスを使用している者は利用不可
高齢者福祉課	高齢者在宅福祉事業(高齢者福祉タクシー事業)	タクシー利用券を一人あたり年間12,000円分交付	出雲平田湖陵大社	70歳以上の高齢者のみの世帯で、以下のすべてに該当する者 ①自家用車を所有していない ②自宅から最寄りの駅又はバス停留所まで500m以上距離がある ③住民税非課税世帯 ※出雲市障がい者福祉タクシー事業実施要綱の規定により助成を受けることができる者の世帯を除く
福祉推進課	障がい者福祉タクシー事業	在宅の重度障がい者等を対象に、障がいの区分に応じて36～144枚のタクシー券を交付	全地域	本人及び配偶者の住民税が非課税(18歳未満は世帯非課税)または生活保護受給者で次のいずれかに該当する者 ①身体障がい者手帳1・2級、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳1・2級所持者 ②身体障がい者手帳所持者のうち、視覚障がい1・2級の者 ③外出時常時車いす利用者 ④外出時常時ストレッチャー利用者
	腎臓機能障がい者通院費助成事業	人工透析患者に対して、距離に応じて通院1回あたり250～1,500円を助成	全地域	人工透析患者のうち、自宅から医療機関まで片道5km以上の者

3. 市民生活と公共交通

3-1. バスの満足度と利用頻度

<公共交通に関する住民アンケート調査の概要>

- 対象：市内に居住する15歳以上の住民から抽出した3,500人
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（またはWebによる回答）
- 調査時期：令和3年（2021）2月
- 回収状況：回収数1,524（回収率43.5%）うち、1,498を集計

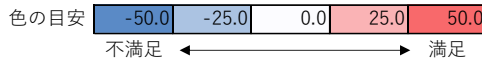
① 市内のバスの満足度

- 「次の便までの待ち時間」は、全ての地域において満足度が低くなっています。
- 斐川地域では、バスが運行していないため、全ての項目において満足度が低くなっています。

市内のバスの満足度

	市全体 (n=1,060)	出雲 (n=412)	平田 (n=143)	佐田 (n=91)	多伎 (n=101)	湖陵 (n=83)	大社 (n=85)	斐川 (n=142)
総合的な満足度	-8.7	-1.5	0.7	-10.0	-6.9	-26.5	-2.4	-32.4
乗降場所（駅・バス停）までの距離	3.8	16.2	11.6	-5.3	29.7	-19.1	7.9	-40.3
次の便までの待ち時間	-40.1	-33.7	-41.7	-44.4	-45.5	-62.1	-38.8	-37.8
時刻どおりの運行	26.5	28.3	31.9	28.7	33.0	19.5	38.8	3.1
運行している時間帯	-9.7	-2.2	-8.4	-25.6	-17.8	-36.1	6.0	-13.0
乗車している時間	17.1	27.4	14.5	2.3	20.8	10.3	25.6	-7.1
運賃・料金	4.3	10.7	23.2	-18.4	18.2	-6.3	-14.6	-14.6
他の移動手段との乗り換え	-12.1	-6.4	-6.6	-17.2	-25.5	-23.8	-4.9	-20.3
車両の乗り降りのしやすさ	20.5	25.4	20.4	23.0	27.8	21.5	19.5	-3.1
乗降場所周辺の駐車場や駐輪場の整備状況	-0.3	2.5	11.0	-1.1	12.1	-9.6	-8.5	-19.1
車内の混雑度	27.5	31.1	34.3	25.6	43.4	13.0	23.5	7.1
利用方法のわかりやすさ	9.3	9.2	19.0	16.1	22.4	1.3	8.5	-10.9
災害等による急な運休など、緊急時の周知方法	0.5	-5.3	16.8	18.7	10.2	-13.8	9.9	-16.3
時刻や路線情報の取得のしやすさ	-7.3	-7.0	9.7	-7.9	1.0	-25.9	6.2	-28.2

「総合的な満足度」のn値を、参考までに記載



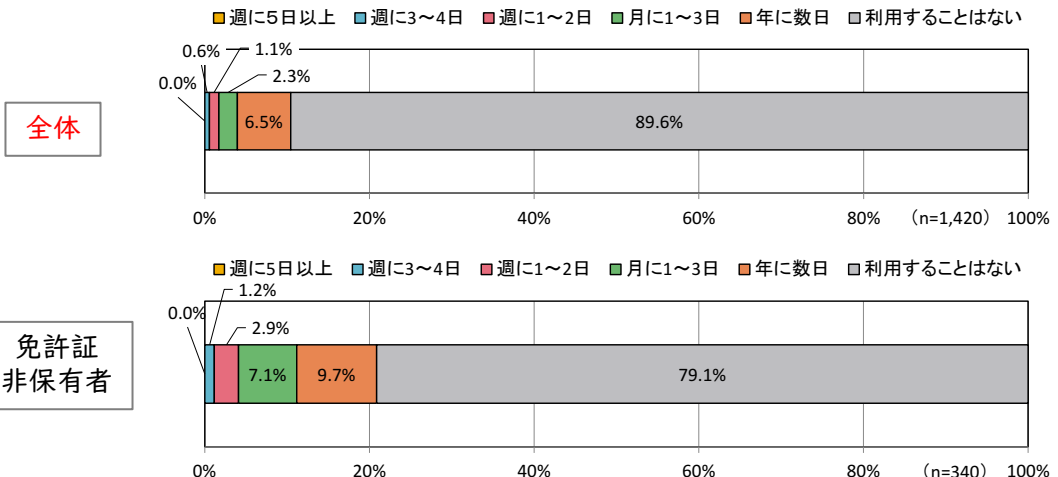
- 回答者は、各項目について、「満足」、「どちらかといえば満足」、「わからない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階評価で評価
- 「満足」「どちらかといえば満足」の割合から「どちらかといえば不満」「不満」の割合を引いて満足度を点数化
- 「満足」「どちらかといえば満足」の割合の方が高い場合はプラスの値（赤色）となり、逆の場合はマイナスの値（青色）となる
- 色の濃さは、それぞれの傾向の強さを示す

資料：公共交通に関する住民アンケート調査

② 市内のバスの利用頻度

- 全体では、市内のバスについて「利用することはない」と回答した人が89.6%を占めています。
- 一方、運転免許証非保有者ではその割合が10.5%低く79.1%となっています。また利用頻度については、「年に数日」や「月に1~3日」と回答した人の割合が全体と比較すると高い傾向となっています。

市内のバスの利用頻度

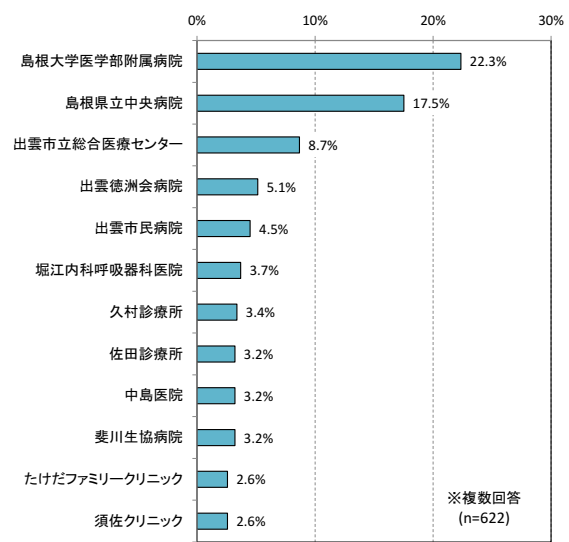
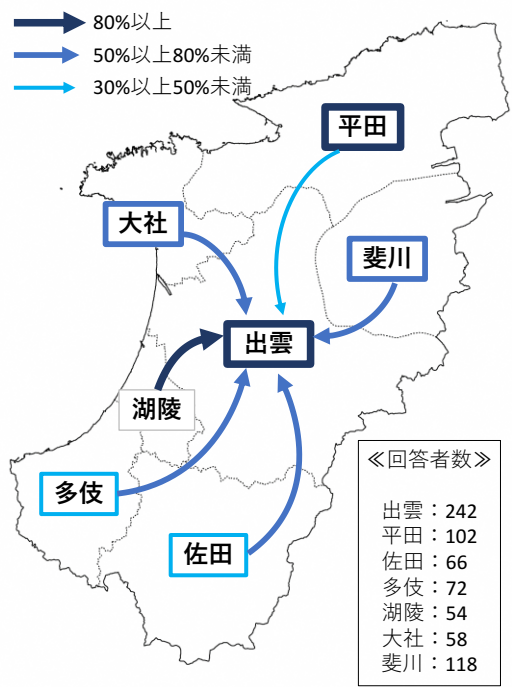


資料：公共交通に関する住民アンケート調査

3-2. 移動の状況

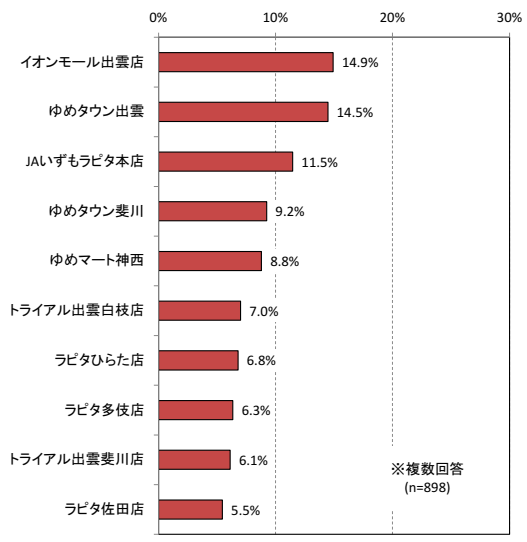
- 各地域から出雲地域へ通院する人の割合が高くなっています。特に、医療機関の少ない佐田・多伎・湖陵地域では、その傾向が顕著となっています。
- 出雲・平田・斐川地域は地域内で買い物をする人の割合が高く、佐田・多伎・湖陵・大社地域は出雲地域で買い物をする人の割合が高くなっています。

通院目的の移動状況



※上位回答のみ抜粋
※定期的な通院に関する回答

買い物目的の移動状況



※食料品や日用品の買い物、その他の定期的な外出に関する回答

資料：公共交通に関する住民アンケート調査

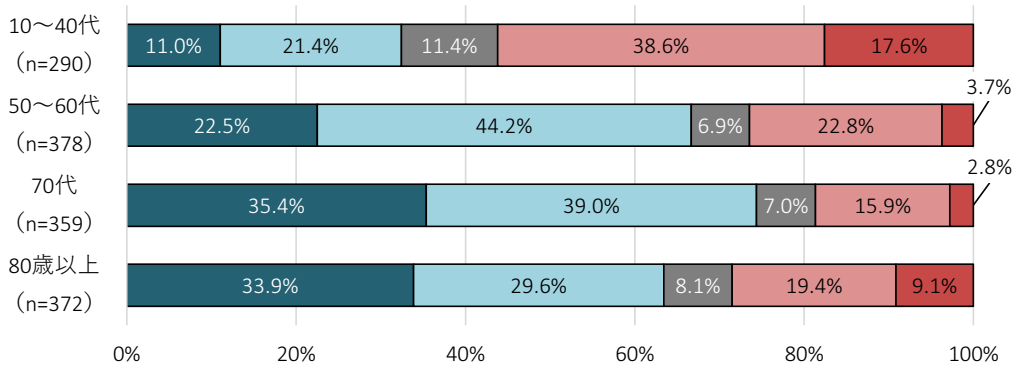
3-3. 高齢者の生活

① 将来の移動手段に対する不安

- 70代や80歳以上で、将来の移動手段に対して「とても不安である」と回答した人が多くなっています。

将来の移動手段に対する不安

■ とても不安である □ 少し不安である ■ どちらでもない □ あまり不安はない ■ 全く不安はない



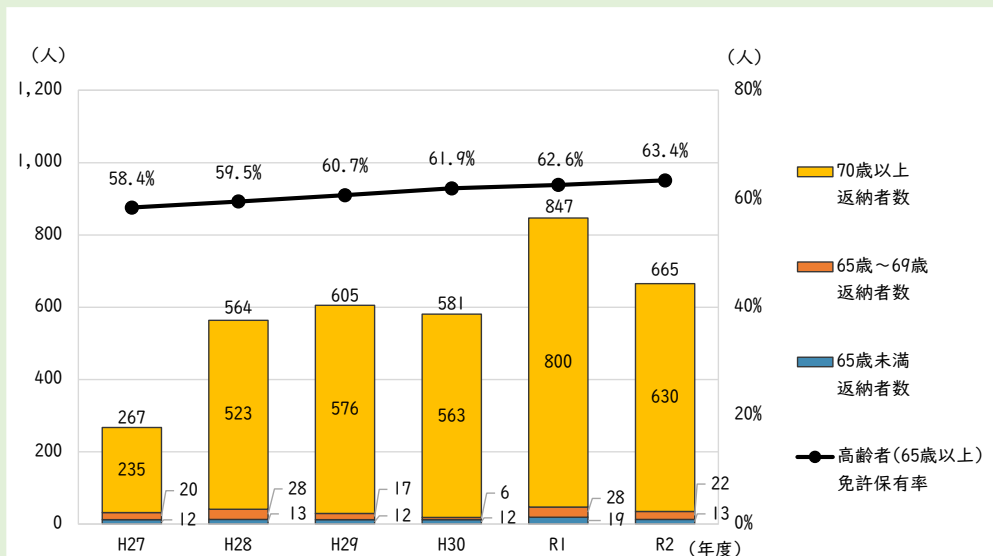
※日常生活における将来(5年から10年くらい先まで)の移動手段についての回答

資料:公共交通に関する住民アンケート調査

高齢者の自動車運転免許証返納者数と保有率

運転免許証返納者のほとんどが、70歳以上の高齢者となっています。一方で市内の高齢者の自動車運転免許証の保有率は令和2年度(2020)時点で63.4%となっており、高齢者の半数以上が自動車運転免許証を保有している状況です。

高齢者の自動車運転免許証返納者数と保有率

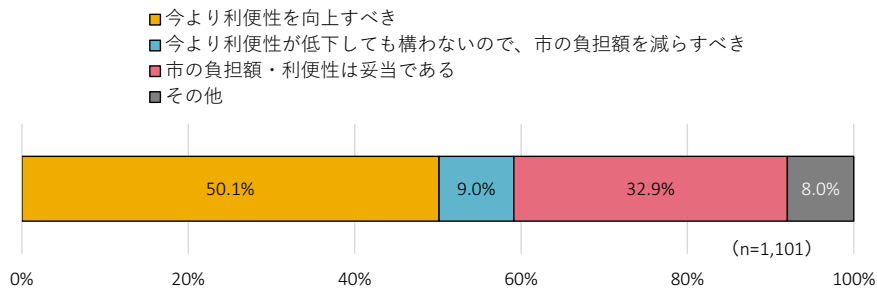


資料:免許返納者・保有者数 島根県警 運転免許課提供
高齢者(65歳以上)人口 住民基本台帳

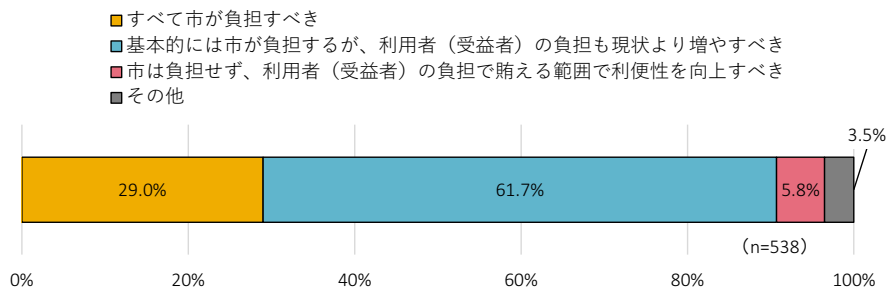
3-4. 公共交通政策に対する考え

- 約半数が「今より利便性を向上すべき」と回答しています。
- 今より利便性を向上するための費用負担については、「基本的には市が負担するが、利用者（受益者）の負担も現状より増やすべき」を選択する人が61.7%と最も多くなっています。

市の負担額と公共交通の利便性に対する意向



今より利便性を向上するために必要な費用負担に対する考え

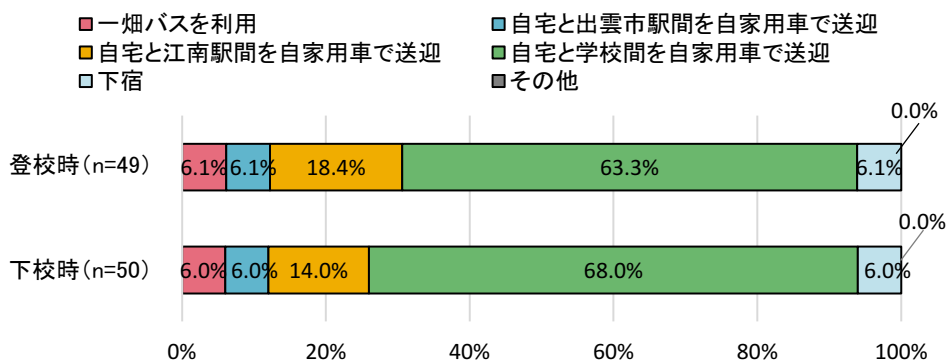


資料：公共交通に関する住民アンケート調査

3-5. 高校生の通学

- 佐田地域の高校生は自家用車による送迎が多数を占めています。

佐田地域に居住する高校生の通学手段



資料：佐田地域における高校生の通学実態に関するアンケート(令和元年度(2019))

<佐田地域における高校生の通学実態に関するアンケート調査の概要>

- ・ 対象：佐田地域内に居住する高校生学齢のいる67世帯
- ・ 調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・ 調査時期：平成31年(2019)1~2月
- ・ 回収状況：回収数42世帯(回収率62.7%)

4. 問題点と取り組むべき課題

4-1. 市内の公共交通に関する問題点

<p>① 市民満足度が極めて低い公共交通と利用者離れの悪循環 市内のバスの満足度は低く、不便な公共交通が利用者離れを招き、さらに公共交通のサービスレベルが低下するという悪循環を招いています。市民の半数以上が市内の公共交通について「今より利便性を向上すべき」と回答しています。</p>
<p>② 拡大する市街地への対応不足 市中心部では市街地が拡大傾向にあり、近年、出雲市駅前の賑わいは失われてきています。また、市街地の拡大に伴い変化する住民の移動ニーズに対して、公共交通が十分に対応できていません。</p>
<p>③ 中山間地域などの出かけることが不便な地域の存在 中山間地域など、商業施設や医療機関へ出かけるのに時間やコストを要する地域や、駅・バス停が遠い地域があります。</p>
<p>④ 高校生の移動手段の不足 中山間地域などにおいて、高校生の通学において保護者の送迎の負担が大きくなっています。</p>
<p>⑤ 将来の移動に不安を抱える高齢者 特に70歳以上の高齢者は将来の移動手段に対して不安を感じています。</p>
<p>⑥ 地域によってルールや仕組みの異なる移動支援施策 高齢者を対象とした移動支援施策は、地域によって異なる仕組みとなっています。また、地域によっては対象者が限定される公共交通サービスしかない場合もあります。</p>
<p>⑦ 利用が少なく非効率な路線の存在 地域や路線によっては、利用者が少なく非効率な運行となっているケースが見受けられます。</p>
<p>⑧ 障壁の多い公共交通の利用環境 市内を運行する公共交通の情報は路線によって異なり、地域によって高齢者や来訪者などにはわかりにくくなっています。また、駅やバス停の待合所や車両など利用環境にも改善の余地があります。</p>
<p>⑨ 観光周遊のための移動手段の不足 市内の観光資源は各地域に分散しており、これらの分散する観光資源への交通手段が乏しくなっています。また、国内外から多くの人々が訪れる出雲大社周辺においても周遊手段が乏しくなっています。</p>
<p>⑩ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響と人手不足 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通利用者の減少はより一層進んでいます。また、交通事業者における人手不足も深刻な状況です。</p>